

取組概要

獨協大学と浜通り市町村との間で継続的な関係を構築し、これまで本学が培ってきた「外国語教育」「環境教育」「地域づくり」に関する資源やノウハウを活かした事業を展開し、情報発信と「持続可能なまちづくり」の仕組みを作ることで、浜通り地域の復興に貢献する人材育成を目的とする。

これまでの成果

●「子ども未来講座」を開講

田村市教育委員会と共催で小学5・6年生を対象に2023年、2024年開講

●小学校外国語科「授業実践力」ブラッシュアッププロジェクト

小学校教員を対象に実施。英語の授業に活用できる「Tamura English Education:Support Book」を作成(2024年度)

●「たむらチャレンジ塾」等の英語の授業に協力

小学生向け英語の授業を提供(2025年度)

●田村市観光情報サイトの多言語化

ドイツ語、タイ語、英語、スペイン語、中国語(繁体字、簡体字)、トルコ語、韓国語、フランス語に翻訳

●エゴマ油リーフレット多言語化

大阪・関西万博に向けて、田村市の特産品であるエゴマ油のリーフレットを刷新、多言語化に協力(2025年度)

●「第4期田村市地球温暖化対策実行計画」策定に協力

パブリックコメントを通して、策定に協力(2022年度)

●地球温暖化対策イベントと環境講座の実施

- ・田村市役所職員研修「脱炭素社会について考える」を開催し、学生が市役所職員に研修を提供(2023年11月6日)
- ・断熱ワークショップ、キエロワークショップを実施(2024年度～)

●小・中学校でのSDGs教育・環境教育の実施

田村市立小中学校において、学生がSDGs、地球温暖化や河川環境など環境問題について考える授業を実施(2023年度～)

●「たむら市政だより」の連載コラム「ちょっと、エコライフ～身近な省エネを実践しよう!～」の執筆

田村市広報誌の連載を担当することで、市民に向けたエコな取り組みを学生が提案(2023年9月号～)

●船引高校地域課題探究活動に協力

船引高校における「総合的な探究の時間」にて、1年生向けの地域課題探究活動に学生がファシリテーターとして協力。(2024年度～)

●パンフレット「CHEERS!阿武隈」を制作

地域の担い手になると期待される農家や企業を訪問し、ヒアリング調査を実施。田村市特産品のパンフレットを制作(2023年度～)

●田村市市長・副市長に脱炭素社会を目指す持続可能な仕組みについて政策提案

「地方創生☆政策アイデアコンテスト」と「第6回SDGsエコフォーラムin埼玉」での実績をもとに、復興知事業の一つの到達点として、白石市長・小野副市長および関係部長に、田村市の地球温暖化対策実行計画の遅れを指摘するとともに、大学(草加市)と田村市との広域連携を通じて、田村市が地域課題解決のために脱炭素社会を目指す仕組みを学生が提案し、意見交換を行った(2025年1月10日)



市内の小中学校で「SDGsって何?」をテーマに授業を実施、「すぐろく気候変動適応への道」ワークショップの様子



市長・副市長に「田村市における再エネを活用した分散型エネルギーシステム構築の提案」をプレゼンし、意見交換会を終えて



船引高校「総合的な学習の時間」の地域課題探究活動でのグループワークのファシリテーターを担当

今後の展開

田村市長からは、令和8年度以降も本学との協力関係を継続していきたいとの意向を確認。地域を持続可能にしていくためには、地域の主体性、地域内外との協働、環境・社会・経済課題の同時解決が求められる。引き続き、どのようにしたら地域の暮らしが豊かになるかを、SDGs・環境や「脱炭素×まちづくり」の視点から実践的に学ぶ場を提供していきたい。

- ・これまで実施してきた田村市立の小中学校における英語教育、環境教育・SDGs教育、船引高校(令和8年度より「あぶくま柏鵬高校」)の「総合的な探究の時間」における地域課題探究活動に協力していくほか、地球温暖化対策実行計画の施策展開に協力し、温暖化対策のイベントを実施したり、「たむら市政だより」の連載コラムの執筆を継続していく。
- ・新たな展開として、田村市において、カーボンニュートラルやエネルギーの地産地消に向けた取組を、まちづくりにつなげる仕組みをつくり、サーキュラー・エコノミー、地域循環共生圏を形成するプロトタイプを田村市とともに構築していきたい。
- ・さらに、他の浜通り市町村等に対象を拡大し、脱炭素×まちづくりに取り組み、広域の地域循環共生圏づくりに協力。「持続可能なまちづくり」を学ぶ場と仕組みを構築していきたい。